

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
『命を輝かし 人と自然を大切に生きる』 ○自ら考え正しく判断し行動できる生徒 ○夢や目標をもち進んで学習する生徒 ○仲間を信頼し感謝の気持ちが表現できる生徒	①規範意識の向上。基本的生活習慣の定着を図る。 ②学習規律の確立と学習意欲の向上を図る。 ③家庭学習・授業改善を推進する。 ④学習機会の拡充を図る。 ⑤保護者・地域との連携・小中の連携した教育活動を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 【全国】(3年) ○国語(A、B)、数学(A、B)ともに、基礎・活用の正答率は県平均より低い。 ○国語Aの「書くこと」の領域では、正答率が82.7%と一定の成果が見られる。 ○国語A、Bで「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においては課題がある。 行書の特徴を理解する:47.4%(県64.0%) ○数学A、Bでは、「資料の活用」の領域は県と同程度であるが、「数と式」の領域に課題がある。 与えられた情報から必要な情報を読み取る:52.6%(県46.5%) 数量の関係を文字式に表すことができる:35.9%(県54.8%) 【県】(1年) ○数学(活用)の正答率は、県平均と同程度であるが、国語(基礎、活用)、数学(基礎)の正答率は県平均より低い。 ○国語では、漢字の読みの正答率が高いが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域で課題が見られる。 ○数学では、数と計算の正答率が高いが、「数量関係」の領域に課題があり、特に百分率の正答率が低い。 【県】(2年) ○国語、数学、英語ともに、基礎・活用の正答率は県平均より低い。 ○国語では、漢字の読みの正答率が高いが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域で課題が見られる。 ○数学では、文字式の正答率は県平均より高いが、「関数」、「資料の活用」の領域に課題が見られる。 ○英語では、長文の読み取りの正答率は県平均と同程度であるが、「書くこと」の領域に課題が見られる。	【学習状況調査の結果】 ○3年生の平日のテレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯系、スマホなど)の時間は、長時間(3時間以上)の割合が全国・県と比較して少なく、2時間以内の割合が高い。1年生と2年生についてはテレビゲーム使用時間は、1時間以上2時間以内が最も多いが、3時間以上使用している生徒の割合が、県と比較しても高い傾向にある。 ○3年生のテレビ・DVDの視聴時間は、全国・県と比較して少ない傾向にある。また、1・2年生は自分で時間を決めてテレビを見ている割合が県と比較して高い。 ○3年生の家庭での学習時間は、1時間から2時間の割合が高いが、全国・県と比較しても、若干少ない傾向にある。 ○2年生は「自分によいところがある」という項目に肯定的な生徒の割合が県との比較において高く、「全くできていない」の割合が1・2年生ともに高い。 ○2年生は、学校で行われる補充学習への参加率が県との比較において高い。 ○「あいさつ」の項目は、県と同様の傾向にある。 ○読書について、3年生は全国・県に比べ図書館・学校図書館の利用が多く、1・2年生は「読書をしている」は県とほぼ同じ割合である。 ○1年生は「自分によいところがある」という項目に肯定的な生徒の割合が県との比較において高く、1年生は県との比較でやや高い。しかし3年生は、全国・県と比較して低い。 ○1年生は「自分が住んでいる地域が好きである」という項目に肯定的な生徒が県との比較において高い。 ○2年生は朝食をきちんと食べている割合は県と比較してほぼ同じであるが、1年生は県と、3年生は県・全国と比較して、朝食をきちんと食べている割合が低い。 ○「学校のきまりを守っている」という項目は1年生と2年生は県との比較でほぼ同じであり、3年生は全国・県と比較してやや高い。 ○県との比較において、2・3年生は自分で学習計画を立てて学習できている生徒の割合が高いが、1年生は低い。

成果	課題
○データベースの問題の活用などにより、3年国語B、数学Bについては、「学力定着状況たしかめテスト」より県平均との差が縮まった。 ○授業導入時の「目標(めあて・ねらいは示された)、授業終末の「振り返る活動が行われた」ができていてと回答する生徒の割合が高い。 ○「学校の規則、きまりを守る」ができていてと肯定的に回答する生徒の割合が高く、規範意識の向上が見られる。 ○朝読書の時間を大切にしたり取り組みの成果として、図書館を利用する生徒や読書をする生徒が増えている。また、落ち着いた生活にもつながっていると思われる。	○国語、数学ともに活用型(思考、判断、表現)の問題を苦手としており、特に記述式の問題にたいしての無回答率が高い。 ○基礎・基本的な内容の定着が図れていない生徒の割合が多い。 ○メディア(特にスマートフォン)を利用する時間が多い生徒の割合が高く、家庭学習の時間が十分でない生徒の割合も高くなっている。 ○生活習慣(就寝時間、朝食)が確立している生徒の割合がやや低い。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎・基本の定着を図るための授業改善	今年度末	「授業が工夫され、わかりやすい」(生徒アンケート)が85%以上。	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり。 ・「アセスメントシート」、「よりよい授業づくりアンケート」を実施し、分析結果を活用して、個々の特性に応じた支援を行うことで、学習意欲を高める。	・アセスメントシートを活用しての授業研究に取り組んでいる。 ・生徒アンケートの「授業がわかりやすい」が、1学期84.1%、2学期88.4%である。(昨年81.7%)	A	・アセスメントシートを活用しての授業研究に取り組んだ。 ・生徒アンケートの「授業がわかりやすい」が、1学期84.1%、2学期88.4%、3学期87.1%であった。(昨年81.7%)	A	・「アセスメントシート」、「授業づくりアンケート」の分析結果を共有する研修を深め、個々の特性に応じた支援の手立てをさらに具体的にする授業づくりに取り組む。
基礎・基本の定着	今年度末	確認テストの正答率が、80%以上。	・3年対象とした「放課後学習(週1日)」及び「土曜日学習(月2回)」の実施 ・テスト週間等の補充学習 ・問題データベースの活用 ・全学年、朝の会、朝の会、授業等での数学の補充学習と確認テストの実施(チャレ)	・確認テストの正答率は、1・2年生は、平均して80%程度になった。3年生は、今後入試に向けた学習に取り組む。放課後学習等は計画的に実施している。問題データベースも積極的に活用している。	B	・1・2年生は、朝の会での学習や朝(昼校前)の補充学習、3年生は放課後学習や土曜学習などを実施し、基礎・基本の定着を図った。問題データベースの活用も積極的に行った。	B	・3年生は、朝の会での学習や放課後学習、土曜学習をさらに充実させていく。1・2年生は、定期的な朝の会での学習、テスト週間での補充学習などを工夫していく。問題データベースの活用、確認テストの実施をする。
家庭での学習習慣の確立	今年度末	家庭学習が1時間以上の生徒の割合を70%以上。	・課題の出し方の工夫。(ホワイトボードに一覧表にして掲示) ・学習の手引きの活用の徹底 ・テスト計画と学期末ごとに学習時間の集計。 ・ノーマディアの取組。(5・8・10・11・2月にノーマディア週間の実施、正しいメディアとの関わり方を考える学習)	・家庭と協力して、ノーマディアの取組を実施した。 ・学習の手引きの活用を徹底。 ・生徒アンケート「家庭学習1時間以上」の割合が、1学期68.8%、2学期72.2%である。	A	・家庭と協力して、ノーマディアの取組を実施した。 ・生徒アンケート「家庭学習1時間以上」の割合が、1学期68.8%、2学期72.2%、3学期69.8%であった。 ・家庭学習の手引きの見直しを行った。	A	・生徒・保護者に家庭学習の重要性を理解してもらうために、年度初めや懇談などで、見直しをした学習の手引きを活用し、徹底していく。また、家庭と協力してノーマディアの取組を実施する。 ・課題の量や質、出し方を工夫して取り組む。

※達成度

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県・全国学力学習状況調査の分析をもとに、学力向上を目指した授業改善。(ユニバーサルデザインの授業づくり、小中合同研修) ○規律ある授業づくり。(チャイムスタート・チャイム終了、教室環境整備) ○各校の授業公開への積極的な参加。 ○小中間における児童生徒の情報交換。 ○小学校への出前授業の実施。	○「家庭学習のスタンダード」「家庭学習の手引き」を活用し、学級懇談や個人懇談で家庭学習のあり方や方法を呼びかける。 ○生活習慣の確立(就寝時間、朝食、ノーマディアの取り組み)を家庭と協力していく。 ○「いじめ」について、学校・生徒会・PTAと協力して取り組み、安心できる学校づくりを目指す。